

中学生・高校生のみなさんへ

おすすめの本

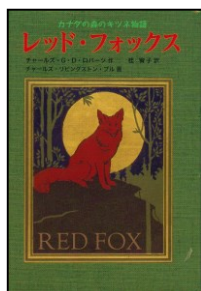


2016年10月発行 発行者：枚方市立中央図書館 図書館児童サービス委員会
〒573-1159 枚方市車塚2-1-1 電話 050-7105-8121 FAX 072-851-0962
* このリストは2015年に新聞等で紹介された本のなかから20冊を選んだものです。

レッド・フォックス カナダの森のキツネ物語

チャールズ・G. D. ロバーツ／著 チャールズ・
リビングストン・ブル／画 福音館書店
N-08

カナダ東部の荒野で一匹のキツネがわが身を犠牲にして家族の命を守った。生きのびた子ギツネのうち、体力・知力ともに群をぬいていたレッド・フォックスは、優れた観察力で人間たちを翻弄する。ところが囚われの身となり、狩猟クラブに売られ、獰猛な狩猟犬たちとのサバイバル・ゲームが始まる。動物たちの緊迫した息遣いと繊細な感情表現で語られている。



国ってなんだろう？

あなたと考えたい「私と国」の関係
早尾 貴紀／著 平凡社 311

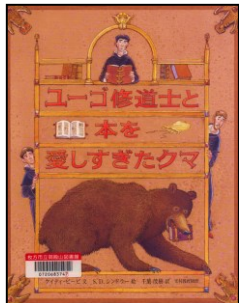
スポーツなどにおいて選手たちは「国」の代表として奮闘するが、そもそも「国」とは何なのだろうか。また、人々がもつ「国民」という意識はいつ頃誕生したのだろうか。国民国家成立までの歴史や、国民国家と差別問題の切り離せない関係、現在の日本はどのような国なのかをわかりやすく解説する。著者はスコットランドの独立運動、移民の問題なども取り上げ、国民国家の世界に染まったものの見方に限界がきていると説く。



ユーゴ修道士と 本を愛しすぎたクマ

ケイティ・ビービ／文 S. D. シンドラー／絵
千葉 茂樹／訳 光村教育図書 **エホン**

中世ヨーロッパの修道士ユーゴは図書館から借りた本をクマに食べられてしまった。修道院長はユーゴに、他の修道院から同じ本を借りて、書き写すように命じる。仲間の修道士に助けられ写本は無事完成するが、本を返しに行くユーゴの後をクマが追いかける。装飾文字を配した挿絵から当時の修道士たちの生活や、本がいかに貴重だったかが伝わる。



ジェーンとキツネとわたし

イザベル・アルスノー／絵 ファニー・ブリット／文
河野 万里子／訳 西村書店 **エホン**

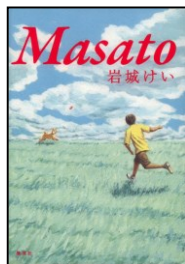
学校でいじめられ一人ぼっちのエレーヌは、読みかけの小説『ジェーン・エア』の主人公と自分の境遇を重ね合わせている。合宿でも孤独なエレーヌだったが、最終日にテントに加わった一人の女の子によってテント内に会話が生まれた。エレーヌのつらい現実や寂しい心象世界はモノトーンで、最後に友を得たエレーヌの現実世界はカラーで印象的に描かれている。



Masato

岩城 けい／著 集英社 **Fーイワ**

真人（まさと）は父の転勤でオーストラリアに住むことになり、現地の公立小学校5年生に転入した。英語ができないせいで学校生活はうまくいかないが、やがてサッカークラブに居場所を見つけた。真人の将来を案じて勉強を強いる母に反発したり、理解者になってくれる父や新しい友人との関係も育みながら、真人は異文化の中で自分の進む道を模索していく。



向かい風に髪なびかせて

河合 二湖／著 講談社 **Fーカワ**

野乃は父親から受け継いだ長いアゴのせいで苗字の安藤をもじって「アンゴー」と呼ばれいじめに遭っていた。野乃はあこがれの二上（にかみ）君もかわいい小春が好きだと気づき、整形手術をさらに真剣に考え始める（「ポパイの憂鬱」）。そのほか「そのままのきみでいて」「美女に腹巻き」「エンジェル」の4話で外見という視点から逃れられない中学2年生女子4人を描く。



ジュンのための6つの小曲

古谷田 奈月／著 新潮社 **Fーコヤ**

14歳の音楽家ジュンは、物音や空の音などを素材にして曲を作り、一日中でも歌うことができた。けれども、その声は、周囲の人には意味不明の叫び声としか聞こえなかった。クラスメイトのトクは、ジュンがギターに合わせて歌うと伸びやかなすばらしい歌声である事を発見する。トクは、ジュンがみんなの前で歌えるように特訓する。



雲をつかむ少女

藤野 恵美／著 講談社 **Fーフシ**

女子高生キクコは音楽に挫折し、家族からも疎まれるようになっていた。軽い気持ちで自分の演奏姿をインターネット上に公開すると、思いもかけず一躍ネットアイドルとして人気者になる。パソコンの向こうの見知らぬ人々から賞賛を浴びて喜ぶキクコだが、やがて彼女の胸には新たな感情がうまれてくるのだった。ネット時代の「いま」を生きる老若男女の姿を描く連作短編集。



声の出ないぼくと マリさんの一週間

松本 聡美／著 渡邊 智子／絵 汐文社 **Fーマツ**

小学5年生の真一はママと二人暮らし。親友の心ない一言がきっかけで声が出なくなり、不登校になった。ママがアメリカ出張中、真一は、ママのおさななじみで、体は男性で心は女性のマリさんと過ごすことになった。マリさんは傷ついた真一を丸ごと受け入れてくれる。二人の抱える問題がオーバーラップする時、お互いの生き方が見え始める。



うたうとは 小さいのちひろいあげ

村上 しいこ／著 講談社 **Fームラ**

高校に入学したばかりの桃子はひょんなことから短歌を詠む「うた部」に入部する。中学時代に親友の綾美を不登校に追いやった罪悪感を抱えていた桃子だったが、部活の先輩たちと触れ合ううちに心を解きほぐしていく。桃子は先輩たちに助けられて綾美を「うた部」に引っ張り込む。そして出場した短歌甲子園は真剣勝負。短歌を詠むことは、自分と向き合い、仲間を信じることだった。



赤の他人だったら、どんなによかったか。

吉野 万理子／著 講談社 **Fーヨシ**

中学2年生の風雅（ふうが）は隣町で起きた通り魔事件の容疑者が遠い親戚だと知る。そのことをクラスメイトに知られたくない風雅だったが素性を隠した容疑者の娘、聡子と同じクラスに転校してきた。聡子は父親のことが既に知られていて仲間外れになる。風雅は何もできない自分がもどかしくなり、しだいに聡子のために動き出した。二人の視点から描いた物語。



ぼくたちに翼があったころ

コルチャック先生と107人の子どもたち
タミ・シエムニトヴ／著 樋口 範子／訳 岡本
よろろう／画 福音館書店 **Nーシエ**

第二次世界大戦前のワルシャワ。俊足で盗みを繰り返していた貧しい少年ヤネクは、コルチャック先生が運営するユダヤ人孤児のための「家」に入所し、初めて十分なパン、子どもを見守る温かいまなざしに出会う。仲間と出会い、子ども向け新聞の記事を書くようになり変わっていくヤネク。その「家」は信頼と愛に満ちていた。



テオの「ありがとう」ノート

クロディーヌ・ル・グイック＝プリエト／著
坂田 雪子／訳 PHP研究所 **Nールク**

障がい者支援施設で暮らす12歳のテオは、何かを頼むたびに「ありがとう」を言うのが嫌になり、ある日、言うのをやめた。それから努力して自分ができることを増やしていく。テオ自身が人を助けると「ありがとう」を言ってもらえることに気づき、「ありがとう」を言った数、言ってもらった数をノートにつけることにした。困難を克服しながら成長するテオの姿を描く。



発信力の育てかた

ジャーナリストが教える「伝える」レッスン
外岡 秀俊／著 河出書房新社 **070**

デジタル技術の急進やSNSの普及によって、誰もが発信者（ジャーナリスト）となる時代がやってきた。不特定多数の人に誤解なく情報を伝えるためには、伝える技術「発信力」が不可欠である。新聞社に勤務し、現在はジャーナリストとして活躍する著者が、「発信力」を磨くコツを情報収集術・取材術・編集術・発信術の4つのプロセスにわけてわかりやすく伝授する。



学校では教えてくれないお金の話

金子 哲雄／著 河出書房新社 338

「お金って何」「世の中のモノの値段はどう決まるのか」「世の中で一番もうかる職業は何か」など知っておきたいお金のあれこれを、著者自身の経験をもとに14才の子どもたちに身近な例を用いてわかりやすく説明している。最後に、お金をためこむのではなく、上手にお金を使っていくことを伝えている。



みんなこうなの？

おとなになるためのベストアンサー
71のQ&A

ヤン・フォン・ホレーベン／写真 アンチェ・ヘルムス／文 畑澤 裕子／訳 講談社 367

思春期の心と体の71の疑問をQ & A方式で答えてくれるドイツの性教育の本。成長し大きく変化していく男女の体、異性への気持ちや性のことなどを深く切り込んで紹介する。この時期ならではの「自分は人とは違うのではないか」という悩みや疑問など、ティーンエージャーが知りたいこと、聞きにくいことをやさしく丁寧に教示する。



世界一おもしろい数の本

カリーナ・ルアール／著 フロランス・ピノー／著 南條 郁子／訳 ポプラ社 410

数学嫌いの人も現代では暮らしにひそむ様々な数学の恩恵を受けている。お金の計算や長さや重さをはかることはもとより、音楽や絵画、建築なども数学がなければ成り立っていない。本書は、数学の発達の歴史と身の回りの数学、いまだに解決をみない数学の謎を紹介しつつ、人と数学の関わりを述べ、数学の世界は身近で美しいものであると結ぶ。ポップなイラストも楽しい数学の本。



泡のざわめき

田中 幸／著 結城 千代子／著 西岡 千晶／絵 太郎次郎社エディタス 431

1940年「泡の多いビール」を巡って裁判があり、ビールの泡は液体よりもアルコール濃度が高いと証明された。洗剤も液体より泡の方が濃度が高いことがある。泡とは液体と気体の境目でおこる「ざわめき」で生まれるもの。シャボン玉やコーヒーの泡、生活を彩りはかなく消える泡の壮大な物語を挿絵とともに化学的に解説している。



わたしのタンポポ研究

保谷 彰彦／著 さ・え・ら書房 479

日本はタンポポの種類が豊富な地域であるが、実は、日本古来の品種のほかに持ち込まれた外来種が広がり、さらにこれらが交配した雑種が都市部ではおびただしく繁殖しているのが現状である。この本では、調査研究記録をもとにタンポポの花や種子・葉に隠されたしくみを探り、そこからわかるタンポポの生態について図や写真を交えて紹介している。



目で見える栄養 食べ物が作る

わたしたちの体 ドーリング・キンダースリー／編 大塚 道子／訳 さ・え・ら書房 498

すべての生き物は食べなければ生きていけない。人間は火を使って食べ物を料理することにより、栄養状態が改善され進化していった。そもそも、栄養とはどのようなものだろうか。食べ物は体の中でどのように栄養に変わっていくのだろうか。写真とイラストで読者の疑問に答えていく。

